

三重の

生きものたより

第38号



和名：ヤマトオサガニ
学名：*Macrophthalmus japonicus*

伊勢志摩地方の泥干潟では、干潮時になって潮が引くと、たくさんのヤマトオサガニたちが姿を現します。巣穴の中にひそんでいた彼らは、潜望鏡のような目で周囲の安全を確認しながら、ゆっくりと干潟の上に這い出します。そして、餌を食べたり、甲羅干しをしたり、あるいは恋のダンスを踊ったりと、のんびりとしたひとときを過ごします。人間や鳥などが近づくと、危険を感じサッと巣穴に逃げ込みますが、少しすると再び干潟の上はたくさんのカニたちでいっぱいです。

人間にとってはただ泥が溜まったただに見え、少し臭い匂いのする泥干潟。しかし、ヤマトオサガニたちにとっては、かけがえのない貴重な場所となっているのです。